

iOS デバッグ & 最適化技法 for iPad/ iPhone 第 2 版

Xcode 5 対応

2013.10.28

Xcode 5 対応

Xcode 5 からはプロジェクト作成時に ARC : Automatic Reference Counting を使う・使わないを選択できなくなりました。いつでも選択状態となります。

本書の前半の作業を実践するためには、ARC を必ず非使用にしなければならないので、ここでその方法を示します。

19 ページ

Use Automatic Reference Counting、および Include Unit Tests のチェックは消えました。ARC は必ず使われ、Unit Tests のプロジェクトに追加されます。



Use Automatic Reference Counting、 お よ び Include Unit Tests のチェックは消えました。

これでは、本書の前半の作業を実践できないので、ARC は次のようにして手動で設定を変えて使わないようにしてください。

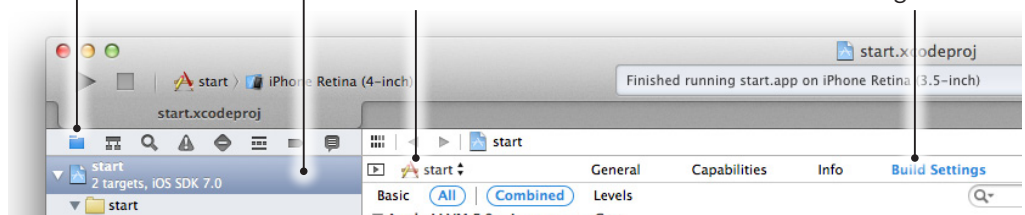
ARC は、それまでプログラマがおこなっていたオブジェクトのメモリ管理をオートマティックに代行してくれる非常に役立つ機構なのですが、その事が逆にオブジェクトのメモリ管理そのものを学ぶ時には邪魔になってしまいます。

1、Show the Project Navigator を選ぶ。

2、start を選ぶ。

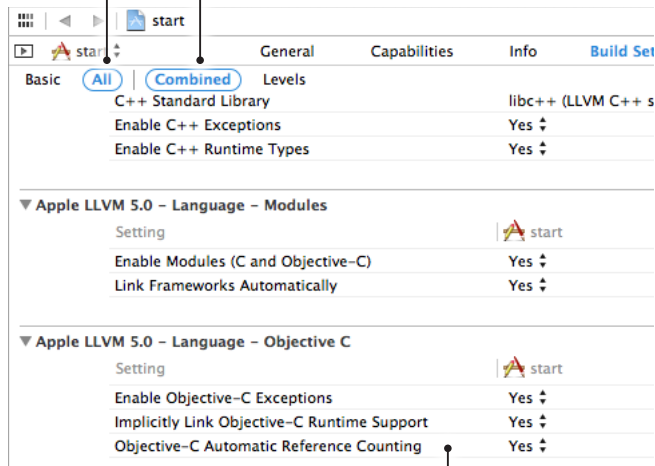
3、こちらも start を選ぶ。

4、Build Settings を選ぶ。

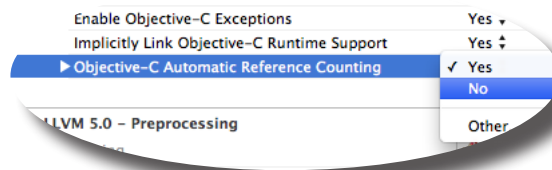


5、All、Combined を選ぶ。

6、スクロールさせる。



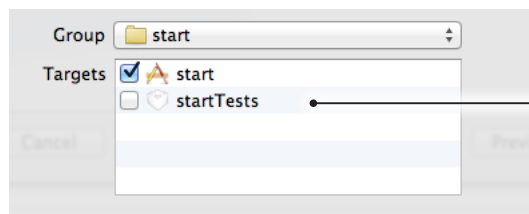
7、Apple LLVM 5.0 - Language - Objective C の Objective-C Automatic Reference Counting 項目を NO にする。



これで、ARC は非使用状態となります。

28 ページ

Unit Tests が必ずプロジェクトに含まれるようになったので Targets に startTests という項目が現れますが、こちらにはチェックを付けません。



startTestes にチェックは付けない。

EDAppDelegate.m には、次のように -dealloc メソッド、autorelease の記述も追加してください。

```
@implementation EDAppDelegate
```

↓ 追加。

```
- (void)dealloc
```

```
{
```

```
    [_window release];
```

```
    [super dealloc];
```

```
}
```

```
- (BOOL)application:(UIApplication *)application didFinishLaunchingWithOptions:(NSDictionary *)launchOptions
```

```
{
```

```
    self.window = [    ←追加。
```

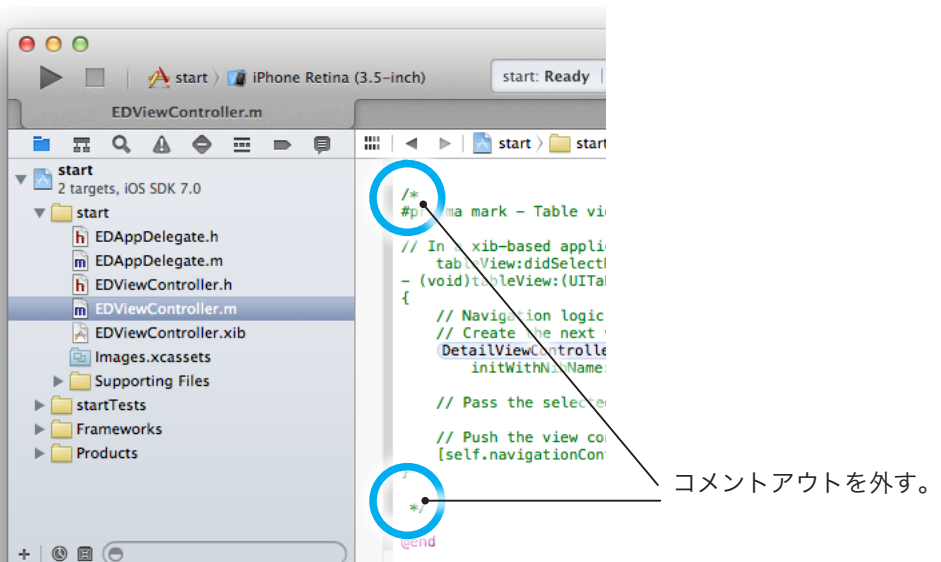
```
        [[UIWindow alloc] initWithFrame:[UIScreen mainScreen] bounds]]
```

```
    autorelease];    ←追加。
```

```
    // Override point for customization after application launch.
```

```
    self.window.backgroundColor = [UIColor whiteColor];
```

-tableView:didSelectRowAtIndexPath: メソッドは、まるごとコメントアウトにされているので、ジャンプバーからは選べません。EDViewController.m の一番下に置かれているので、自分で画面をスクロールさせてコメントアウトを外してください。



また、テンプレートで用意されたものは ARC 用なので、次の 1 行を追加してください。
ARC 使用時は、この 1 行をコンパイラが代行してくれるわけです。

```
- (void)tableView:(UITableView *)tableView
    didSelectRowAtIndexPath:(NSIndexPath *)indexPath
{
    . . .

    // Pass the selected object to the new view controller.
    [self.navigationController pushViewController:detailViewController animated:YES];
    [detailViewController release];    ←追加。
}
```

46 ページ

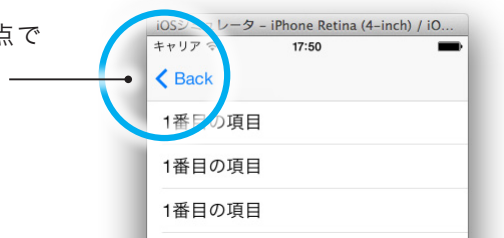
iOS 7 からは UITableViewController のビューの管理方法が変わったので、タップしても強制終了せずに普通に次の画面に切り替わります。



この時点では強制終了しなくなった。

次の画面に切り替わったら、Back ボタンを押してください。
ここで強制終了します。

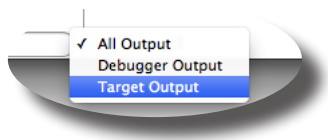
Back をタップした時点で
強制終了する。



変数エリアの種類を選ぶボタンの位置が変わりました。



変数エリアの種類を選ぶボタンの位置が変わった。

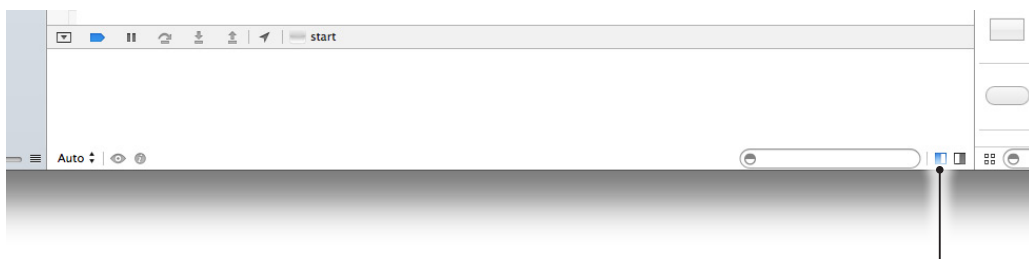


全面を変数エリアにするボタンの位置も変わっています。



全面を変数エリアにするボタンの位置が変わった。

全面を変数エリアにするには、2つあるアイコンのうち、左側だけ選択状態にしてください。



左側のアイコンだけ選んだ状態が全面を変数エリアにした状態となる。

また「変数は NSString ではない」というメッセージは、もはや表示されないかもしれません。

変数、コンソール画面はそれぞれ個別のボタンで表示・非表示するようになりました。



変数側の表示 / 非表示

コンソール側の表示 / 非表示

まず、最初に無効にしていたブレークポイントマーカをクリックして有効に戻します。

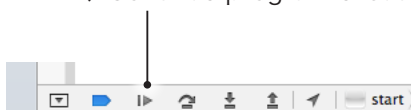
は、次のページの

Continue program excution ボタンを押してください。

を先に実行してからおこなってください。

先に Continue program excution ボタンを押し

1、Continue program excution ボタンをクリック。

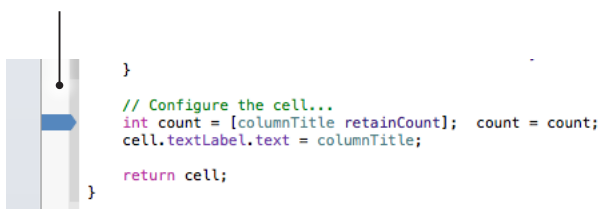


これで、シミュレータは次の画面に移る。

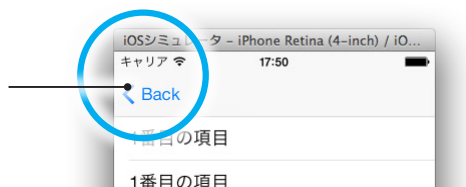


そのあと、無効にしていたブレークポイントマーカをクリックして有効に戻し、シミュレータ画面の Back ボタンをタップする事で、有効にしたブレークポイントで止まります。

2、無効にしていたブレークポイントマーカをクリックして有効に戻す。



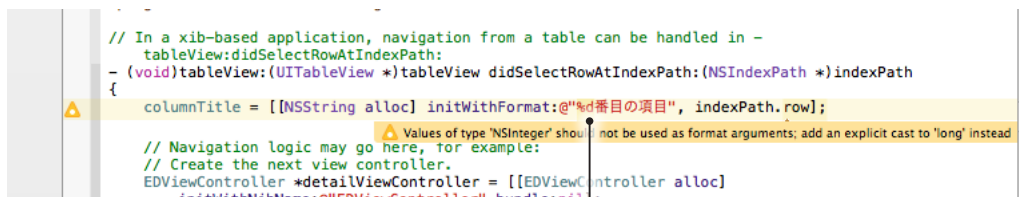
3、Back をタップする。



自動解放プールの仕組み自体は本のとおりなのですが、NSPushAutoreleasePool を使う方法は変更されたようです。残念ですが実践して確認する事はあきらめ、本を読み進めて自動解放プールの仕組みを理解するようにしてください。

仕組み自体は現在も有効です。

Instruments 起動時は型チェックが厳密になりました。そのため indexPath.row の戻す値の型が int 型ではないことを注意してきます。



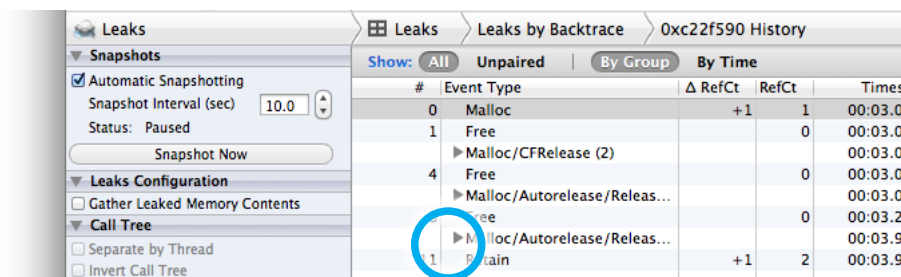
Instruments 起動時は型チェックが厳密になりました。

そのままでも特に問題はありませんが、気になる人は次のようにキャストしてください。

```
initWithFormat:@"%d番目の項目", (int)indexPath.row];
```

↑
int 型にキャスト

Malloc や Autorelease/Release がまとめられて表示されるようになりました。



それぞれの Malloc や Autorelease/Release を見るにはデスクロージャをクリックします。

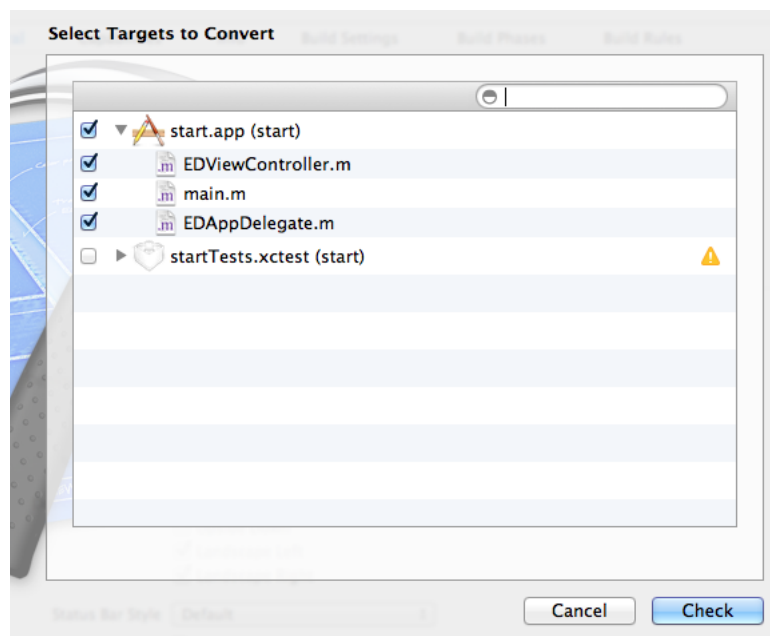
デスクロージャをクリックすると中身が見れる。

	▼ Malloc/Autorelease/Release (3)
9	Malloc
10	Autorelease
12	Release
11	Retain

162 ページ

EDAppDelegate.m、EDViewController.m と、分割して変更作業を実行する事ができなくなりました。最初に 166 ページのように、全ファイルを変更指定して実行します。

166 ページのように全ファイルをチェック（startTests.xctest はチェックしない）しておこなってください。

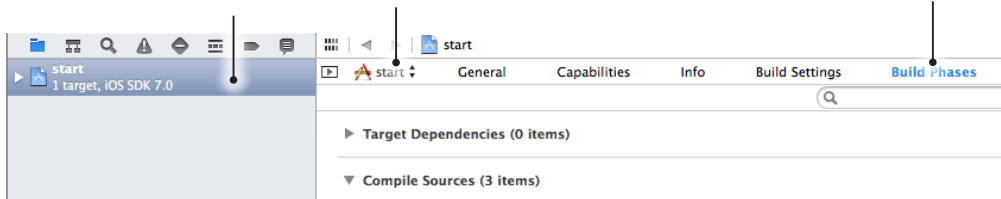


Check ボタンをクリックして変更させると、エラーになり 167 ページでおこなっている手動でのコメントアウトが必要となる場所は同じです。本のとおりエラー部分をコメントアウトしてってください。

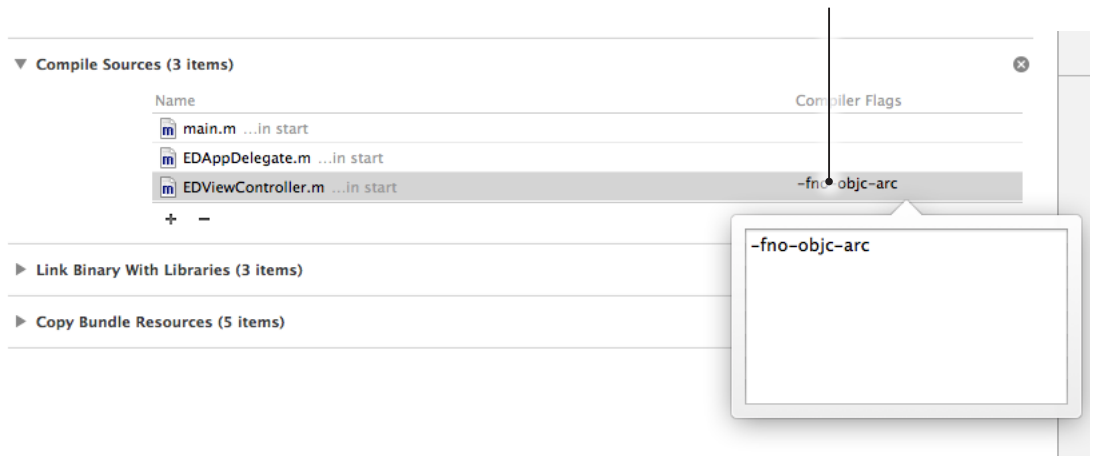
コメントアウト後、再度変換を実行させると、164 ページから 166 ページにかけて説明しているようになります。

165 ～ 166 ページで説明しているファイルごとに ARC 使用 / 非使用を指定できる機能は Xcode 5 でも有効です。

- 1、start プロジェクト項目選択。 2、start を選択。 3、Build Phases を選ぶ。



ダブルクリックすると入力ボックスが表示される。



以上で Xcode 5 対応の説明を終わります。
お疲れさまでした。